

高松支部メディア教育研究部会活動報告

研究主題

「高度情報通信社会に対応する
学校教育のあり方」

1 はじめに

高度情報通信社会が進展し、コンピュータや視聴覚機器は生活に欠かすことのできないものになっている。また、これに伴ってコンピュータと視聴覚機器は互いに関連し、切っても切れない関係になっている。高松支部では、これまで情報教育部会として情報について、視聴覚教育部会として視聴覚機器についてそれぞれ研究してきたが、平成 18 年度よりメディア教育部会として総合的に研究している。

平成 18 年度は、デジタルカメラ等の映像データの処理・加工方法やデジタルボード等授業で直接利用できるメディア機器の利用方法など、ハードウェア的な面を中心に研究した。平成 19 年度は、情報教育部会で平成 17 年度からの継続研究という形で進められてきた情報モラルに関する研究とコンピュータの利用環境についての研究を進めている。

2 研究の概要

(1) 平成 18 年度の取り組み

最近のメディア機器における知識や技術の進展の速度はこれらを習得しても陳腐化するのが非常に早く感じられるようになった。そして、コンピュータやインターネットをはじめとする ICT 技術の進展は、各校における教育情報機器の現状にも差が生じている。そのため、教育情報機器の使用が個人に偏りがちであったり、使用されにくい物が出てきている。そこで、18 年度は、最新技術の動向把握と各校に配置されている教育情報機器の

活用方法の実態調査をもとに、より幅広い授業で教育情報機器の活用を進める手立ての研究をした。

研究内容

「教育情報機器の操作マニュアルづくり」市内各校に整備されている教育情報機器の現状に合わせて、教育情報機器の幅広い授業での利活用を目指して、6 グループ別に分かれ、操作マニュアルや活用方法例づくりを行った。

操作マニュアルを作成した情報機器

- ア プロジェクタ
- イ 電子情報ボード
- ウ デジタルカメラ
- エ デジタルビデオカメラ
- オ 大判プリンタ
- カ 校内 LAN

課題

教育情報機器の充実の様子は、高松市においては、旧市内の学校と合併町の学校とでかなり異なっているが、徐々に同様な状況に整備されてきている。しかしながら、これらの機材の使用については、十分に活用されているとは言えない状況であり、一部の教師の力に頼りがちである。効果的に活用される手助けとして、活用事例集や操作マニュアル作りを行ったが、各校において教育情報機器についての研修を行っていくことが必要である。

(2) 平成 19 年度の取り組み

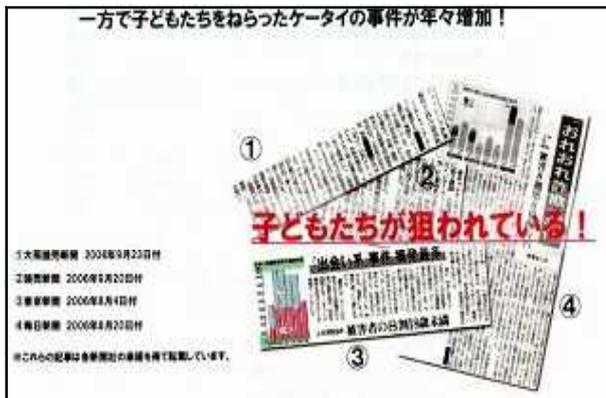
本年度は、平成 17 年度から情報部会で継続研究という形で進められてきた情報モラルに関する研究とコンピュータの利用環境についての研究を進めている。

携帯安全教室

表 1 に示すものは、平成 17 年度に情報部会高松支部で高松市内の生徒を対象にしたア

コンピュータ・携帯電話に関する実態調査 平成17年 (人)			
	有効回答数	(はい) (%)	(いいえ) (%)
自宅にコンピュータはありますか。	1707	1369 (80.2%)	338 (19.8%)
自宅のコンピュータはインターネットに接続していますか。	943	827 (87.7%)	116 (12.3%)
保護者がいるとき(よい)どインターネットに接続できないようになっていませんか。	1210	137 (11.3%)	1073 (88.7%)
自分自身の携帯電話を持っていますか。	1700	659 (38.8%)	1041 (61.2%)

表 1



ンケート結果(抜粋)である。

中学生の約 80 %の者がコンピュータを自宅に保有し、その中の 90 %近くがインターネットに接続され、インターネットの利用を保護者の監視の下でなくてもできる者も 90 %近い。また、自分自身の携帯電話を持っている者も約 40 %いるという結果であった。このような状況を受けて、「情報モラル」についての学習方法を研究した。

本年度は、7月30日に、香川大学附属高松中学校において「情報モラル」学習の一環として講師に NTT ドコモ四国の方を招いて携帯安全教室の研修を実施した。

コンピュータの利用環境

インストラクターの方を招いて情報教育支援システムの紹介とデモを行った。



学校においてコンピュータを利用した授業を行う機会は増加している。しかし、すべての生徒がコンピュータの操作に習熟していないため、個別に指導しなければならない場面も多々ある。一斉に画像を見せたい場面に効果的なソフトウェアとして報教育支援システムの紹介を行った。

3 おわりに

中学生のインターネットや携帯電話の利用者数が増加する中で、私たち教員が指導することができるようになることは、大切である。また、コンピュータ室で指導をする際に、生徒が使いやすく、私たち教員が教えやすい環境を整えておくことも大切である。本年度は、教員研修を中心に行ったが、今後は、授業を実施するにあたっての資料やマニュアル作りにも取り組んで行く必要がある。また、年々変化する状況に対応できるよう毎年行進する必要もある。昨年度の取り組みである情報機器については、操作マニュアルだけでなく、管理の方法等についても考えていく必要がある。